会員企業探訪

卸販売業から塗料メーカーへ 画期的な次世代型塗料を開発販売

株式会社 まつえペイント ● 専務取締役　小田　貴志

人手不足が深刻な建設業界、屋根や壁などの塗装業も例外ではない。天候の影響を受けやすい仕事でもあり昨今の異常気象の中、工期に間に合わすために長時間労働を余儀なくされるケースもあるという。こうした塗装現場の工期短縮、職人の働き方改革や工費軽減につながる新型塗料を株式会社まつえペイントが開発し、全国販売を本格的にスタートさせた。専務の小田貴志さんは「父が長年考えてきた塗料が実現できた。信頼のある商品に育てたい」と意気込みを語る。

株式会社まつえペイントは昭和46年創業。建設用塗料とその周辺機器の卸販売業として事業を始めた。塗料の卸売りをする傍ら現場に足を運び職人らの話に耳を傾け、きびしい労務環境の改善、環境や職人の健康への負荷軽減のために平成9年に環境事業部を設け独自に塗料の開発に着手。およそ20年をかけて完成したのが次世代型塗料「アミコート」だ。

塗装は通常、下塗り、中塗り、仕上げ塗装と3工程を要する。風雨や紫外線での経年劣化で徐々に薄くなってしまうことから耐久性を持たすため塗膜の厚さも求められる。「アミコート」は高耐久な樹脂、シラスバルーン（天然の無機セラミック）、特殊繊維のハイブリッドによりしっかりとした密着性と高耐久性を1回塗りで実現する塗料で、通常塗装3回塗りの約2倍の膜厚を形成し長期にわたり建物を保護する。また遮熱性や防藻・防カビ、紫外線カットなどの機能も備える。さらに作業の工程数が減ることから費用面での軽減も期待できる。「一回で済む塗料があれば」という現場の声から生まれた画期的な塗料である。

「アミコートという名はスペイン語で友達を意味するアミーゴからとっています。塗装に関わる様々な方が、この塗料によってお互いを尊重し合える関係を持ちながら仕事ができれば、という願いから父が名付けました」と小田さんは言う。

経年による壁の汚れだけでなく、換気口やパイプもアミコートで塗装可能。
壁面の色を施工前と変えることで、モダンな印象に。

商工会議所がきっかけづくりに

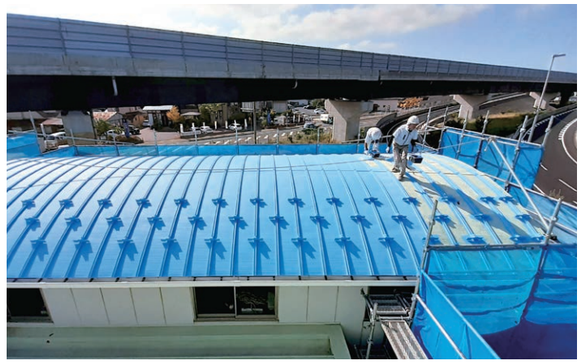
小田さんは大卒後、東京の塗料メーカーに研究開発職として15年間勤務、昨年Uターンし現職に就いた。これまで販売や営業の経験がなくどうやって「アミコート」をPRするか考え、まずホームページを制作することにしたところ、その制作会社から補助金があるという話を聞いて商工会議所につながった。

「商工会議所の担当の方から申請書類作成のアドバイスをいただいたのはもちろん、いろいろな情報をくださり、合同プレス発表会へも参加できました。地域で頑張っている他の事業者の方との交流が広がり、日経新聞の取材、記事掲載につながりました」と持続化補助金だけではなく様々なメリットがあったと小田さんはよろこぶ。さらに「たまたまですが、私の同級生も合同プレス発表会に参加していて、お互い仕事の情報交換ができるパートナーになれたのもうれしかった」という。生まれ育った松江だがUターン組でもあり、ここで仕事をするのは初めてでとまどいもあったが、人とつながるきっかけを商工会議所がつくってくれたと実感する。

塗料卸販売業を行っていた会社が塗料メーカーへと業態を変えていく。そのかじ取りという大切な役割を担当する小田さんは、アミコートの特性を理解していただき協力いただける会社とともにじっくりと取り組みたいという。

「アミコートを使えば作業効率が上がり、長時間労働を避けられる。職人が自分のための時間を多く持てるようになればいい」と話す。働き方改革に資することで、職人の採用や育成にも有利となると見込む。

「昨年は製造面、広報面、販売面などで様々な方の協力をいただき、しっかりとした下地が作れた年でした。今年度からはビジネスとして発展できるよう進めていきたい」と抱負を語ってくれた。



社屋の屋根をアミコートで塗装中。
一度の塗りで終わるため、入口や窓の周辺などは早く覆いを取ることが可能
▼アミコートの塗装の模様はこちらでご覧いただけます

アミコートの色見本もご用意しております。ぜひ一度、お問い合わせください

経営理念

- 常に情熱を持ち続ける事
- 常に誠実であるか問いかける事
- 常に一歩踏み出す勇気を持ち続ける事

まつえペイントの社屋は、津田ICのすぐ南。
ご来社の際は、地図で事前チェックをお勧めします

株式会社 まつえペイント
〒690-0011 松江市東津田町1282-2
TEL0852-24-3030 FAX0852-26-5407
営 8:00～17:00
休 土・日曜日、祝日
HP http://www.matsue-paint.co.jp/
「アミコート」専用サイトはコチラ▶

取材・文●矢島浩三　撮影●古川　誠